



領域3を含まないRNA-Y4では折線Qになることから、領域3の有無で結果が決まることがわかる。

**【講評】**

大問数、解答数ともに昨年と同様であった。前期試験と同様に、Iの一部とIIが知識問題で、Iの一部とIIIが考察問題であった。知識問題：考察問題＝7：3で、知識問題の割合が高くなった。問題のレベルは基本：標準：発展＝6：2：2で、前期試験に比べると解きやすい問題である。時間的にはちょうどよく、IIIの考察問題に30分以上の時間をかけることができたであろう。

I：問4は分子系統樹に関する計算問題である。計算しやすい問題設定になっており基本的な問題である。その他の問題は知識問題であり、2問程度のミスで乗り越えていきたい。

II：全問が知識問題であり、すべて基本的な問題である。Iと同様にミスは2問程度にとどめておきたい。

III：知識問題はなく、設問の文章をじっくりと読み考える本格的な考察問題である。日本医科大では前期、後期ともに毎年このような難しい実験考察の問題が出題される。問4が唯一の論述問題であるが、実験の内容が解読できれば書きやすい。